

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズライン（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和6年12月5日		～	令和6年12月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和6年12月5日		～	令和6年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別的な支援を充実させている。	一人ひとりに合わせた支援室の環境を用意し、お子さんが課題や活動に集中しやすい環境を整えている。お子さんごとに毎回の課題を用意している。	お子さんの好きなもの・関心のあるものをさらに知って、5つの領域での支援内容を充実させる。種類の不足している課題については、拡充を図る。
2	職員間の連携を図っている。	子どもの行動への対応の仕方や課題の設定の仕方について、職員間で話し合う機会を持っている。支援記録をデータベース化して、担当しているお子さん以外の支援で上手くいったことを参考にすることのできる仕組みを整えている。	毎日のブリーフミーティングの時間を設けて、その日に留意すべき点について、職員間の共通認識を高める。事業所内だけでなく地域や外部団体との連携を深める取組を推進する。
3	保護者支援を充実させている。	年2回のモニタリング面談に加えて、随時の相談の機会を設けている。親勉強会プログラムを希望に応じて提供している。	誰でも随時の相談をしやすいような仕組みを作る。

	事業所の弱み（※）と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	内部研修の内容に改善の余地がある。	研修は一部のスタッフが外部研修に参加して、その内容を内部で共有することが中心になっている。	スタッフの意見を積極的に取り入れた内部研修プログラムを企画・実施し、現場での課題解決に直結した研修内容を増やす。
2	保護者同士の関わりの機会を作ることに課題がある。	日々の支援は、個別に行っているため、保護者同士が交流する機会がない。	保護者向けの勉強会などの場を設けて、その中で保護者さん同士が顔を合わせたり、意見交換したりする機会を作ることを検討する。
3	事業所で定めている各種マニュアル、指針について、保護者への周知の仕方に改善の余地がある。	重要事項説明書への記載、壁への掲示など、周知方法が複数に分かれている。	ホームページへの一括掲載、ニュースレターでの周知など、保護者さんに伝わりやすい方法を検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		キッズライン（児童発達支援）					公表日	令和7年3月30日	
							利用児童数	25	回収数 18
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	94%	6%	0%	0%		お子さんの様子に合わせた部屋の割り当てや環境設定を心がけています。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%	0%	0%	0%			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	78%	11%	6%	6%		パーティションや絵や文字のスケジュール表などを活用し、お子さんにとってわかりやすく過ごしやすい環境づくりを心がけています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%			
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	94%	0%	0%	6%		ホームページに、5領域を踏まえた支援プログラムを公表し、利用者に配布しました。この内容に沿った支援内容の提供に努めます。	
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	94%	6%	0%	0%		お子さんの支援に関する日々の記録、行動観察、保護者の方のお話などに基づいて、支援計画を作成しています。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		ガイドラインの支援内容に即した支援計画の作成に努めています。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	94%	6%	0%	0%		お子さんの様子に合わせて、担当支援員を中心に、支援プログラムの内容を毎週更新しています。	
保護者 への 説明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	56%	6%	33%	6%	感染症もあるので他の子供との交流は必要ないかなと思う。	地域交流については、利用者の皆様のご意見を踏まえて検討していきます。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	94%	0%	0%	6%	やりたい人だけやるの選択肢があり助かる。ペアレントトレーニングがとても役に立った。	希望者の方に、全13回のe-learning講座を提供しています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	94%	6%	0%	0%		お子さんへの理解を深められるよう、担当支援員や児童発達支援管理責任者が、保護者の方とお子さんの様子について話し合う機会を持つようにします。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	83%	17%	0%	0%	毎回困り事などの相談を本人のいない所でゆっくりすることができ助かっている。	見学室をご利用の方には、機会があるごとにお声がけさせていただきます。保護者の方が相談しやすい環境にしたいと思います。	

保護者への説明等 (続)	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	94%	6%	0%	0%	職員の方と接すると、親と一緒に子どものことを認めて見守って頂ける貴重な存在だと感じる。	保護者の方と協力してお子さんの発達を支援していけるよう努めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11%	17%	17%	56%	仕事もあるので、保護者会が開催されても、参加が難しいかもしれない。	保護者同士の交流、きょうだい児同士の交流については、みなさんのご意見をうかがいながら、検討します。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	89%	6%	0%	6%		内部、外部の苦情解決の窓口について、通所のしおりに記載しています。また、契約の際にご説明しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	89%	0%	6%	6%		今年度は、ニュースレター『キッズラインニュース』を年3回発行しました。来年度は、年4回の発行を予定し、定期的な情報提供に努めます。自己評価の結果は、ホームページで公表し、利用者の皆様に配布します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	94%	0%	0%	6%		個人情報を含む書類は鍵付きロッカーに保管するなど、個人情報取り扱いには十分留意します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%	0%	0%	0%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	94%	6%	0%	0%		令和6年度は、利用者の皆さんと一緒に、津波、火災、水害の避難訓練を行いました。また、職員の感染症BCP、災害BCP研修を行いました。来年度以降も、各種訓練を実施します。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	67%	6%	0%	28%	事故等が発生したことがないので、わからない	事故発生時は、保護者の方に速やかに連絡し、迅速な対応ができるよう、日頃から安全管理に努めます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	94%	6%	0%	0%		
	29	事業所の支援に満足していますか。	94%	6%	0%	0%		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズライン（児童発達支援）				公表日	令和7年3月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	個別指導のために個室を用意しているので、十分なスペースの確保がされている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	1対1の個別指導を行なっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	収納の工夫やパーティションやボックスを利用することで部屋の環境を子供が集中しやすいように整えている。階段が急なので、小さい子どもやきょうだい連れの保護者が1階を利用するよう工夫したり、ポスターを貼って注意喚起したりして安全に配慮している。	階段や段差のバリアフリー対策が不十分なため、注意喚起のポスターだけでなく、さらなる安全対策が求められる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	定期的な清掃を行なっている。子どもの特性や活動内容に応じて部屋を使い分けている。	棚や窓の掃除時間の確保やトイレの清潔さの向上が求められる。線路が近いので、電車の音が苦手な子には配慮が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個室での個別指導を提供している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	スタッフミーティングで情報共有や意見交換を行っている。また、日々の個別プログラムの更新と記録、定期的な支援計画作成やモニタリングを通じて、PDCAサイクルを効果的に回している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者による事業所評価を毎年行い、結果をもとに改善目標を立て、目標が達成できたかどうかを振り返る機会を作っている。保護者向け勉強会を実施することができた。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	定期的にスタッフミーティングを実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6		第三者評価がどのように実現可能かを検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	外部研修の紹介や、外部研修参加費の助成を行なっている。	内部研修の内容の充実が課題。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	5領域の支援プログラムを作成し、HPに公表した。プログラムを印刷したものを毎回保護者に渡している。	できていない部分に対処することのほかに、発達の中でどのあたりにいるのかに焦点を当ててプログラムを組み立てられるとより良い。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	初回にカリキュラムベースのアセスメントを行っている。計画更新の2回目以降は、日々の支援記録や観察、モニタリング面談の内容をもとに計画を作成し、利用者の状況に応じた柔軟な対応を行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	児発管と担当支援員が支援会議を行い、内容を検討している。	「何が好きか」「何をして過ごしたいか」など、子ども自身の意見を聞く機会を設けられると良い。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	保護者に承認された計画を担当支援員と共有し、支援の一貫性を保っている。さらに、日々の支援を記録するデータベースには、その時々目標が表示され、目標に沿った支援と結果を記録できる仕組みが整っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	支援開始初期に、感覚プロファイルを実施している。日々の支援の中で行動を観察している。	フォーマルなアセスメントは全児童に行っていない。	

適切な支援の提供（続）	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	担当支援員と自発管、必要に応じて他の支援員の意見も取り入れながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	毎回プログラムを更新している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		集団活動の可能性を検討してもよいかもしれない。部分的なところからでも。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	必要に応じて確認しあっている。打ち合わせはする時としない時があった。	毎日のブリーフミーティングを取り入れた。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	6	必要に応じて情報を共有したり、職員同士で話し合ったりしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	毎回の支援について記録し、共有できる仕組みができています。	
関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		担当支援員も参画できるとより良い。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	訪問支援を行い、その結果が個別担当支援員に共有されている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	保護者の要望に応じて、学校連携文書を作成し、就学予定の学校との情報共有を促進している。	双方向の連携を強化するための仕組みを作れると良いか。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	6		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	こちらで交流の機会を設けていないが、利用者がそれぞれ幼稚園や保育園に通っているため、必要性を感じない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	毎回その日の様子を保護者に伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0		子どもの意見を聞く機会が作れると尚良い。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	保護者勉強会を開催し、保護者間のつながりができるきっかけを提供した。	ニーズがあれば検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		どのような活動が可能かを検討したい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		利用者家族への内容の周知が不十分かもしれない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	今年度は、地震、火災、浸水、のそれぞれについて避難訓練をおこなった。	救出を想定した訓練を行うとより良い。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	てんかんをもつ子どもとその対応について共有している。	予防接種の有無は確認していない。必要か検討。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	5	食べ物を提供する機会がない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	避難訓練のお知らせをしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットが起こったら必ず記録し、ミーティングで対応を検討し、実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	身体拘束につながりうる事項についても記録をとるようにしたことで、できるだけ体を触って子どもの行動を阻止することを避けようという意識が高まったと思う。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	子どもが道路に飛び出そうとしたなど、子どもの安全に関わる時は、体を触って子どもの行動を阻止してもよい、それ以外ではできるだけ避けるようにする、と理解している。	一律に計画に記載する必要があるのか検討したい。